

令和6年度 外国語科 授業改善推進プラン

大田区立南蒲小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

(中・高)・ゲームや歌などを取り入れ、楽しみながら外国語を学べる環境をつくることができた。高学年はワークテストも購入しており、聞く力が身に付いてきている。

(2) 課題

(中)・楽しみながら取り組んでいるが、一人一人が発音練習やプレゼンテーションをしたり、英語での会話をしたりする機会が少ない。

(高)・中学年同様、一人一人がコミュニケーションやプレゼンテーションを通して発音する機会が少ない。また、自分の思いを英語で伝えたいという目的意識が低い。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第6学年	- 概ね区・全国の正答率、目標値を上回っている。 「読むこと」の正答率が低い傾向にある。 - 解答形式別では、記述式の問題が弱い傾向にある。	- 領域別の正答率は、区・全国の目標値、平均値を下回っている。その中でも、とくに「読むこと」「書くこと」の値が低い傾向にある。 「思考・判断・表現」にあたる、自分の考えを英語で記述し表現する力が弱い。	- 領域別の正答率は、すべてにおいて目標値、区の平均値を下回っている。 - 問題別では、聞き取った単語や会話の意味理解はできているが、文字で読み取ったり、英作文を書いたりする力が弱い。

(2) 分析（観点別）

① 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- アルファベットの読み・書きでは、大文字と似ている字形の小文字の書き方に誤答が多く見られた。 - 曜日や月などの単語が入っている文章は、誤答が多い。	- 話の内容を推測して聞くことは比較的得意である。 「英文の完成」「英作文」では、例文を参考にすると書ける児童が多い。一方で、対話の流れをくみ取って作文をするといった、「聞く」「書く」が組み合わさった問題では、正答率が低い。	英作文では、「書けそうにない」という意識からか、正答率が低く、無回答も他の問題に比べて多かった。

3 授業改善のポイント（観点別）【◎は重点項目】

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 一斉の発音練習とともに、一対一で発音や会話をする練習を取り入れる。 - インプットとアウトプットを繰り返し、児童が英語表現に慣れ、自然と発話できるようにする。	◎例文をそのまま真似するのではなく、自分の考えや思いに当てはまる表現を見付けて言えるようにしていく。	- ALTや担任が一対一で質問などをし、個別に発音や会話をする機会を増やしていく。 - 自分の言いたいことを考え、表現できるようにする。

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- スモールトークなどで様々な単語を聞きく。一人一人が発音するという機会を増やし、単語に慣れ親しむ。 - 発音だけでなく、単語や文を可視化し、文字と音が一致できるようにする。	◎様々な場面の会話を聞く機会をつくる。また、その会話に対して、意見が言えるようにする。 - 例文を見ながら英作文をする活動を多く取り入れる。	- 英作文をする活動を取り入れて慣れさせ、苦手意識を減らす。 - 活動では、自分の考えが英語で表現できるようになったという達成感を味わえるようにする。